

第 65 回 国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 特賞

豊島岡女子学園中学校 1 年

中西 紗英

課題①

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

副題

なし

平和とは何か。私は先日 JICA 地球ひろばを訪れた。そこでは、地球が抱える問題を SDGs と合わせて解説したり、JICA の国際協力について説明したり、途上国の現状についての展示を行ったりしていた。

それを受け、私は平和についての世界の現状や課題を詳しく理解するため、経済平和研究所発表の世界平和度指数(GPI)をもとに、世界地図を色分けした。GPI とは、国や地域の平和度を、軍事面に加え、治安や犯罪なども含めて数値化したもので、低い方が平和な状態である。163 か国中、GPI が 1.5 以下の国を青、1.5-2 の国を水色、2-2.5 の国を橙、それ以上の国を赤とし、平和なら青系、逆なら赤系となるように分類した。その結果、先進国・途上国関係なく、アフリカ、東南アジア、中東、南北アメリカ等で赤系の地域が多かった。一方、ヨーロッパはウクライナやトルコを除くほぼすべての国が青系だった。特に中東(イラン付近)やアフリカ(赤道以北)で赤の地域が密集していた。

先程、赤系の色の地域が先進国・途上国関係ないと述べたが、これは GPI が治安や犯罪を考慮しているからだと思う。戦争・内戦の有無以外に、安全に暮らせるかも平和の要素だからだ。さらに、幸福であるかも関係すると考え、調べたところ、世界幸福度報告書に基づくランキングで上位の国の多くが、GPI ランキングで上位の国と一致していた。

現在、ロシアによるウクライナ侵攻やガザとイスラエルの戦闘など世界には戦争が絶えない。核に関する問題も議論されているが、なかなか解決に向かわない。何か私たちにできることはないだろうか。

まず、現状を知るべきだ。平和で治安もいい日本で暮らしている私たちにとって、そうでない人々に目を向けることは難しいかもしれない。しかし、平和活動に取り組む組織・人や国際問題についての本、途

上国や紛争地域についてのニュースはたくさんある。世界が直面している問題について知り、解決に向けてできることを考えさせられる機会はたくさんあり、意識的にそれらを知ろうとする姿勢が大切なのだ。

それをふまえて、ボランティアに取り組める。青年海外協力隊のように大がかりではなくても、地域の行事への参加やゴミ拾い活動を通じて、身近な平和に貢献できる。募金や寄付活動も大事だ。日本でも学校で募金活動を行ったり、こども食堂やフードバンクなどに食材を寄付したりすることは広く行われている。また、私が小学校の時に住んでいた英国でも、募金やボランティアの文化が根付いており、多くの人々が積極的に参加していた。このように、世界にあふれる小さな活動一つひとつが、助け合いの社会、皆が幸せ社会、ひいては世界平和への一歩となる。

勿論、このように個人の活動は大切だが、平和のために大きく前進するためには国際協力は欠かせない。私は、1992年に国連事務総長が提唱した「予防外交」を国家や国連がさらに強化していく必要があると思う。現在、ウクライナやガザ地区への支援や、停戦に向けての会談等が行われている。しかし、事が起こってからではもう遅く、多くの人々が被害にあってしまう。戦争を未然に防ぐため、国際交流を活発にして皆が多様な文化について知り、認め合える環境整備をしたり、社会的格差による国内紛争等を防ぐために教育の不平等等を解消したりする等、戦争の根本的原因を取り除くことが大切だと思う。

最後に、平和とは皆が安心して幸せに暮らせる状態だと思う。そのために、小さなことから取り組んでいけば、世界は平和に近づく。私も世界の現状について知る、解決に向けて何ができるかを考えるという小さな行動から始め、将来的にはそれを活かして国連や世界に関わる大きな行動に移して、世界平和への前進の一助になりたい。